

交通事故の低減に向けた関係諸団体との連携

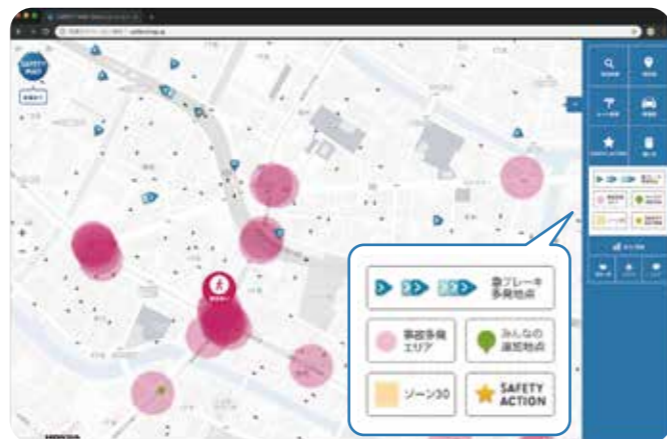
Hondaでは、安全運転普及活動をされている関係諸団体や業界の方々とも積極的に連携を深め、交通事故の低減に向けて取り組んでいます。

交通事故未然防止に向けた「SAFETY MAP」の活用

「SAFETY MAP」は運転者のみならず、歩行者・自転車利用者も含めたすべての交通参加者が、パソコンやスマートフォンで自由に活用でき、皆様の声でつくられていく安全マップです。また、個人の利用だけでなく、交通事故防止に活用する企業・団体も増えています。

今年は滋賀県警察本部と「交通事故防止対策の推進に関する協定」を締結。「SAFETY MAP」に表示されている急ブレーキ多発地点情報のデータを提供したり、交通安全教育に活用できる事故分析資料の提供を受けるなど、交通事故防止に向けて相互に協力していくこととなりました。このような協定を昨年までに4都府県の警察本部と締結したほか、広島県庁や大阪市立大学にもデータを提供しています。

急ブレーキ多発地点情報をもとに、警視庁では129ヵ所、千葉県警察本部は10ヵ所で対策を検討し、道路環境の改善を進めています。また、長野県警察本部では県内の警察署に情報を提供し、交通安全MAPの作成などに活用されています。



パソコン用「SAFETY MAP」(画面はイメージ)。日本中を走るHondaインターナビ(双方方向通信型のカーナビ)搭載車から集められたデータをもとに作成した急ブレーキ多発地点情報をはじめ、事故多発エリア情報やゾーン30情報などを表示。パソコンやスマートフォンで自由に閲覧でき、自分が危険だと感じた場所に投稿することも可能。詳細は以下のWebページを参照ください。
<https://safetymap.jp/>

警察、県庁、大学との連携	年	連携先
2016年		大阪府警察本部(協定締結)
		長野県警察本部(協定締結)
2017年		千葉県警察本部(協定締結)
		警視庁(協定締結)
		広島県庁(データ提供)
		広島県警察本部(データ提供)
2018年		大阪市立大学(データ提供)
		滋賀県警察本部(協定締結)

「SAFETY MAP」の急ブレーキ多発地点をもとに現場を確認し対策した実施例



改善前：急ブレーキ多発地点に信号機なし



改善後：信号機を設置



改善前：停止線のかすれ



改善後：停止線を明確にするため倍幅化

教習指導員のレベルアップと交流の場を提供

全国の自動車教習所教習指導員の方々の自己研鑽への動機づけや情報交換と交流の場としていただくことを目的に、2001年に始まった「全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会」(後援：(一社)全日本指定自動車教習所協会連合会)は今年で18回目を迎えました。会場となった鈴鹿サーキット交通教育センターで、全国84校133名の教習指導員の方々が2日

間にわたり競技に取り組みました。さらに実車競技に加え、安全な実技講習会運営について学び合う実技指導力についてのグループディスカッションも実施しました。この大会には、全国22校24名の教習指導員の方々に審判員としてご協力いただき、ノウハウの提供も行っています。



普通二輪部門競技



四輪部門競技



実技指導力のグループディスカッション

二輪車関連団体などの活動にも積極的に協力

1969年より警察庁が開催している「全国白バイ安全運転競技大会」では審判業務や車両整備などに協力しています。また、(一社)日本二輪車普及安全協会が開催する安全運転活動への各種協力や、(一社)日本自動車工業会(以下、自工会)が推進する高校生原付通学者や高齢ライダーへの安全運転指導などにも協力しています。

自工会二輪車特別委員会 二輪車企画部会 二輪車安全教育分科会では、埼玉県の新たな「高校生の自動二輪車等の交通安全に関する指導要項」の制定に参画。原付や二輪車に乗せない教育から安全運転教育を充実させ、乗せて教育する方針転換につなげました。



第49回全国白バイ安全運転競技大会



埼玉県における「三ない運動」の見直しを議論する検討委員会